

文化観光側面からみるラスベガスの都市マーケティング戦略

李知映

Las Vegas city marketing strategy from a cultural and tourism perspective

LEE Jiyoung

Abstract

In recent years, Las Vegas has changed its position from a casino city to a family location and remains one of the world's leading entertainment cities. With regard to the urban marketing strategy of Las Vegas where these results were derived, we reviewed the changes in the city and analyzed and considered mainly in terms of performance content. As a result, we were able to guide our position as an entertainment tourism city through four successful strategies: 1) the theme strategy of casino facilities 2) the centralization strategy of tourism infrastructure 3) the activation strategy of events and (4) the promotion strategy of private investment.

Key words: Las Vegas, Entertainment tourist city, Performance content, Tourism industry, Urban marketing strategy

(2022年3月4日受付, 2022年6月22日受理, 2022年9月30日発行)

はじめに

余暇の時間と経済力を有する富裕階級の特権だった観光が、第二次世界大戦後具体的には1960年代頃からは著しい復興による大衆の経済力向上と観光の商品化が相まって、大衆に普及するようになった。このような現状を指す言葉としてマスツーリズム (Mass Tourism) がある。このマスツーリズムの急速な発展と普及により、観光は世界で最大規模の産業であると言われるまでに成長をもたらすようになった。

アメリカ合衆国商務省分析局 (U. S. Department of Commerce, Bureau of Economic Analysis) によると、観光産業はいくつかの種類にまたがっている多様な産業グループとしてとらえられ、旅行業、交通産業、宿泊業、飲食産業、アミューズメント産業、

土産品産業、旅行関連産業等幅広い産業から構成されている。いわば観光産業というのは一つの特定の産業というよりも、むしろ異質な産業から成り立っている産業の複合体と言ったところである (U. S. Department of Commerce, 2011)。従って、観光産業は旅行者などの欲求を満たすためにサービスと便宜を提供する各種の関連産業の総称であるといえるだろう。また、日本観光庁のTSA (旅行・観光サテライト勘定) によれば、「主として観光商品を生産する事業所の集まりであり、観光商品は、需要の大部分が観光客による財貨・サービス」が、観光産業であると定義されている。このような観光産業は意識水準の向上、生活環境の変化、そして交通手段の発達などにより世界で成長速度の早い産業として登場しており、世界各国は観光産業を未来の主力産業として位置づけ、その質的競争力を高めるた

めに支援を惜しんでいない¹⁾。

本論考では過去の犯罪都市の汚名をそそぎ、カジノ都市から家族向けの場所へとポジショニング戦略を変え、世界屈指のエンターテインメント都市として位置付けられたアメリカ合衆国のラスベガスの都市変化について文化観光の側面から再考察する。近年、観光産業の流れが芸術文化分野の方に拡散されているにも関わらず、芸術文化観光に関する認識とその必要性を論じている研究はまだ不十分である。ゆえに、本論考は今後の芸術文化観光研究に関する研究の礎として位置付けられることに意義を置く。本研究を遂行するため、先行研究等の文献及び各データに基づく研究、加えて現地調査及びインタビュー調査の実施等による実証研究を通して都市の成功戦略を明らかにする²⁾。

1. ラスベガスの都市イメージ変化過程

スペイン語の「草原」の意味を持っているアメリカ合衆国ネバダ州の東南側のモハビ砂漠の真ん中に位置しているラスベガスは19世紀までは旅行者たちが休憩をとる砂漠地域のオアシスであったが、1905年南カリフォルニアとソルトレークシティをつなげる鉄道が完成したことにより、都市が形成された。1931年には世界最大規模のフーバーダム建設のための労働者たちの余暇活動の場としてカジノが営業するようになり、本格的な観光地として脚光を浴びるようになる。その後、「年中無休」という独特な砂漠の休養地として華やかなホテル、レストラン、大型カジノなどがずらりと並ぶようになり、リゾート産業のすべての要素を網羅している巨大な都市となる。

1-1. ラスベガスの初期(1829年～1930年)

ラスベガスの歴史は1829年から始まる。当時、ニューメキシコのサンタフェからカリフォルニアのロサンゼルスに向かって、スペインの探検家アントニオ・アルミホを含む60名の探検家たちと商人らは、蒸し暑いモハビ砂漠の真ん中で貴重なオアシスを発見する。その周りには草原が広がっていたた



図1 全米主要都市との位置関係

出典 [https://www.lvtaizen.com/map] (2022年3月4日閲覧)

め彼らはそこを、スペイン語の「草原」という意味を持つ「ラスベガス」と名付ける(谷岡, 1999)。オアシスの周辺には人々が住んでおらず、原住民であるインディアンたちが時折立ち寄ってオアシスを使っていたと推定しているが、その周辺に住み始めたのがモルモン教たちであった(Land & Land, 2004)。

1848年メキシコ戦争の結果、この地域はアメリカ合衆国の領土に併合され、1855年モルモン教の指導者でありユタ領土の州知事であったプリガム・ヤング(Brigham Young)はプリングハースト(William Bringham)を代表とする約30名の宣教団を派遣、インディアンたちを教化させるように指示する。その流れの中、宣教師たちはインディアンたちの力を得ながらラスベガス渓谷に教会と集落を建てた。それによって、渓谷を通り過ぎる旅行者たちの休憩場所として利用されるようになった。ところが、近隣の地域で鉱山が発見され、その運営を巡って宣教師間の不和が起き、鉱山を捨てて宣教師たちは皆そこから撤収することとなる(Land & Land, 2004)。

このラスベガス地域に再び人々が定着するようになるのは1856年からで、ゲス(Octavius D. Gass)という人物が元モルモン教の集落に移住し、ラスベガス牧場(Las Vegas Ranch)を開いた時からである。インディアンたちを雇用して水路を建設し、リンゴ、桃、ブドウなどの果物を植え、それを旅行者を対象に売ることができ、さらにはここで作ったワインが有名となり、旅行者たちが次から次へと訪ねてくる

こととなった (Land & Land, 2004)。これに加え、1850年後半、ラスベガスから北西に400km離れたバージニアシティで金鉱が発見され、アメリカ合衆国西海岸はゴールドラッシュに沸き返り、一攫千金を求めて人々が押しかけるようになり、まもなくこのラスベガスにも定住する人が現れたのである。

1861年にはユタ領土からネバダ領土へと分離、1864年にはこのネバダ領土がアメリカ合衆国の36番目の州として昇格される。このラスベガス地域がネバダ州に編入されるのは1867年のことである。

1-2. 鉄道とフーバーダム

(1930年代～1940年代初)

ゴールドラッシュの波はネバダ州の人口増加には寄与をしたものの、1900年ラスベガスに定住している人は25人に過ぎなかったが、1905年、南カリフォルニアとソルトレークシティをつなげる鉄道が完成されたことにより、その背後の都市の一つとしてラスベガスは初めて成長の基盤を築くこととなる。人口は増え続け1905年にはラスベガス町が誕生し、1911年3月16日にはラスベガス市となる(表1参照)。それから、ソルトレークシティとロサンゼルスをつなぐ高速道路をラスベガスを経由することに成功し、1921年にはラスベガスの最初の空港であるロックウェルフィールドを完工した。現在のラスベガスへのアクセスは交通の発達とともに、すでに1920年代にその基礎が出来ていたことが分かる。

ゴールドラッシュが終わって、1929年、ニューヨークのウォール街で大恐慌が始まる中、1931年に起きた二つの出来事は、ラスベガスを急速に成長させる要因となる。一つ目が賭博の合法化、二つ目がフーバーダムの建設である。

第一次世界大戦による経済恐慌と、1929年に起きた世界恐慌により大不況がおとずれ、これを克服しようと1931年ネバダ州では賭博を合法化した。その時までは非合法的に密かに、そして小規模で行なわれたが、これを合法化した政策の変化により1940年代のリゾート型カジノの礎が築かれることになる (Moehring, 2000)。ネバダ州は税収増大の観点から合法化することによって今まで非合法的

なカジノ産業に税金を賦課するという単純な構造であったが、このような政策の変化がカジノ産業とラスベガスの未来に決定的な役割を果たしたことは否認できない (R.ヴェンチャーリ, 1978)。このような動きにより、地下から地上へと上がってきたカジノ産業はもはや企業化、産業化することができる根拠を確立し、観光産業を主導する土台を構築することとなった。

表1 ラスベガス人口の変化

年度	Las Vegas city, Nevada
1900	25
1910	800
1920	2,304
1930	5,165
1940	8,422
1950	24,624
1960	64,405
1970	125,787
1980	164,674
1990	258,295
2000	478,434
2010	583,756
2020	664,903

出典: U.S. Census [<https://www.census.gov/en.html>]
(2022年3月4日閲覧)を参照し、筆者による作成

さらに、この表1から、自動車、車、飛行機などのような現代的な交通手段の発達とともにラスベガスの人口が増えていたことが分かる。即ち、1910年代の鉄道駅、1920年代の高速道路及び空港、1930年代のダム建設、それから1940年代の軍需産業工場と軍事基地の建設により、ラスベガスは大きくなっていく。

また、1931年には連邦政府による世界最大規模のフーバーダム建設が行われた。このダム建設は以前から願われていたことであるが、ニューディール政策の一環として実現化され、1930年から1939年まで当時、約7,000万ドルに至る巨大な公的資金がこの地域に投資された。この大規模な建設プロジェクトに全米から集まった労働者たちが集まり、

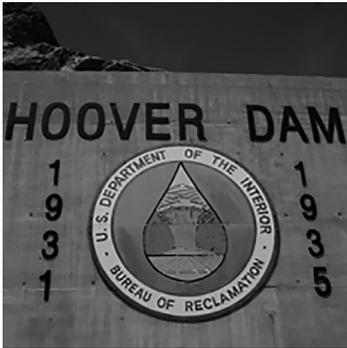


図2 フーバーダム
筆者による撮影(2019.9)

1930年ごろ約5200人の人口が10年後は約8500人へと増えた(U.S. Census、表1参照)。アメリカ合衆国大恐慌の中、次から次へと失業者が建設現場に仕事を求めてくる。そして、ここラスベガスは、彼らに様々な娯楽と遊び場を提供することで、新しい娯楽の場として好景気を向かえることができた。また、ダム建設は1931年3月から始まり1935年9月に終わるが、このダム建設により得られた一次的な恩恵はダムで生産される安価な電力を利用することが出来たことだ(図2参照)。即ち暑い夏の気温を調整することができ、このこともラスベガスが急速な発展を遂げることに重要な要素として作用する。

ダム完工後も、このフーバーダムは豊富な水と電力をラスベガスに供給することで、多くの人口と観光客を受容することができる基盤を提供し、ラスベガスの宿泊及び遊興施設を拡張する契機となった。即ちラスベガスの都市発展の原動力となったのである。

1940年代初頭には、ラスベガスはまた新しい成長の機会を迎える。第二次世界大戦中、ラスベガス周辺地域が軍需産業工場と軍事基地の建設に理想的な場所として選定され、軍部隊と軍関係の人材が集まるようになる。

1-3. カジノ産業(戦後～1960年代中盤)

戦後から現代的なカジノが設立されはじめ、それ以降、約10年間大規模なリゾートホテル建設ブームとなる。現在のような派手で華やかなラスベガス

の原点には、1946年にオープンするホテルフラミンゴ(図3参照)がある。当時、大物マフィアであったバグジー・シーゲル(Bugsy Siegel)氏によって、ホテルフラミンゴのカジノが大成功を収めると、他のマフィアたちがホテル付カジノを競って建設することとなる。



図3 ホテルフラミンゴロビーに飾っていた
記録写真(年代不明)
筆者による複写(2019.9)

バグジーはカジノやショールームなどさまざまなエンターテインメントを提供し、これまでにはなかったリゾートホテルを目指した(武藤、1998)。観光客を誘致するために、独特のテーマを持ち洗練された環境、即ち、カジノやホテル、プール、ショッピング施設、ショーステージ、テニスコート、ゴルフ場などを併設した世界初のIR施設(カジノを含む統合型リゾート)を創出したと言える。ここで注目したいのは、バグジーの功労がホテルフラミンゴを建てるためにマフィアの資金を動員したのではなく、シ



図4 Downtown Las Vegas, 1954. (Las Vegas News Bureau)
マッカラン国際空港内に飾っていたものを筆者により複写 (2019.9)

一ステージのため、ハリウッドの社交界をラスベガスに誘致したことである。

ラスベガス・ストリップ (Las Vegas Strip) (アメリカ合衆国ラスベガス・ブルバードの中で長さ約 6.8 km にわたる部分を指す名称。(以降、ストリップと称する) にバグジーがホテルフラミンゴを建てた時期には、周りにホテルがまだ二つしかなかった時期である。当時はストリップよりダウンタウン (図4参照) の方が人が集まる場所で、ここにホテルやカジノが多かったが、バグジーがストリップの方にホテルフラミンゴを建てたことによって、本格的な観光地としてストリップが脚光を浴びようになる。その後は、「年中無休」といった独特な砂漠の休養地として華やかなホテル、レストラン、大型カジノなどがずらりと並ぶようになり、歓楽の都市として世界的な名声を持つようになる。

バグジーがダウンタウンではなく、ストリップの方にホテルフラミンゴを建てたことに関してはラスベガスに対する既存のイメージを一転する試みの一例として考えられる。観光客を誘致するため、独特なテーマを持ち洗練された環境作りに力を入れたことや、ハリウッドスターを動員しショーを行うなど、彼が追求した総合レジャー施設は現在のラスベガスのホテルの原型とも言える³⁾。それが、1950年代、フランク・シナトラやエルビス・プレスリーなどエンターテイナーによるショービジネスが隆盛につながり、ホテル内で劇場と会議場を建設することで、その結果ラスベガスは人々にとってカジ

ノだけではなくショーやスポーツ、会議などのイメージを与えるようになり、ラスベガスは黄金期に突入することとなる。

1-4. 大手企業の資本の流入 (1960年代末～1980年代中盤)

1960年代末になると、ラスベガスの姿を根本的に変化させる、新しい法律が制定される。それは、公的企業 (public corporation) や法人にもカジノホテルを買収して運営することが出来るようにネバダ州が1969年に制定した、「企業ゲーム法 (The Corporate Gaming Act)」である (Moehring & Green, 2005)。

従来は、カジノ産業に関する許可は個人や小規模の合資会社だけにおりていたため、大規模な資本を調達するには限界があった。しかし、この企業ゲーム法により、大規模な資本を持った大手企業がラスベガスに進出することが可能となった。MGM、Hilton、Holiday Innなどの大手企業がホテルを保有しはじめるようになり、かつて個人や小規模の合資会社との連携を持ちラスベガスを支配してきたマフィア組織も、少しずつラスベガスを離れていくようになった。

2. 家族中心のレジャー空間 ——都市全体のテーマ化

ラスベガスの観光需要は1980年代に停滞する現象をみせる。その原因の一つは、1976年、東海岸のアトランティックシティのカジノが合法化された

ことである。これにより、1980年代末までのラスベガスは沈滞期に入り、新規のカジノホテルの建設も不振状態に落ちる。

ラスベガスが大型リゾート系カジノホテルの時代を迎え、活気を取り戻すきっかけとなったのは、1989年、ミラージュホテル(図5左)がストリップにグランドオープンされた後からである。ミラージュホテルは、3,044室の客室を持つ現代式の豪華なホテルとして家族単位の観光客を誘致するため、老若男女すべてが楽しめる、テーマパーク水準の娯楽施設をそろえた。このホテルが標準となり、1990年には当時一の客室を保有するエクスカリバー

ホテル(図5右)がオープンした。この二つのホテルが、現在ストリップに多く建てられているメガホテルの嚆矢である。

以後、ストリップ(図6)には「家族のためのエンターテイメント」をスローガンとしてリゾート系のホテルが次々に建設されるようになる(Moehring, 2000)。MGMラスベガス、モンテカルロ(現、パークMGM)、パリス、ベラージオなど、現在もなじみのある多くのカジノ&ホテルリゾートが1990年代以降次々に建てられるが、これらは一律的ではなく各ホテルがそれぞれのテーマを持っているテーマ型リゾートに属するのである(図7参照)。



図5 (左) ミラージュホテル / (右) エクスカリバー ホテル
筆者による撮影 (2019.9)

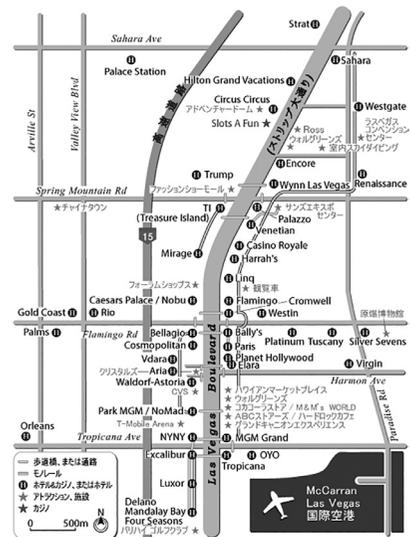
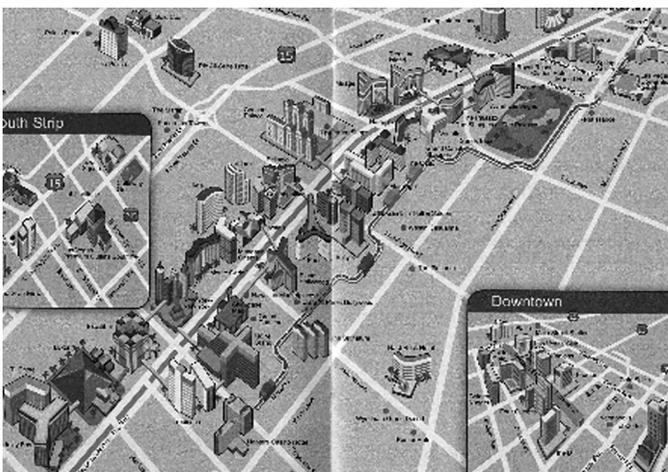


図6 ラスベガス・ストリップ

出典:『地球の歩き方 ラスベガス セドナ&グランドキャニオンと大西部 2019-2020』(左) / [https://www.lvtaizen.com/category/map/] (右)

ストリップに新しく建てられたリゾートホテルは特徴的な外観を持ち、各ホテルは、まるで大型テーマパークで経験できるような多様なプログラムとイベントを、ホテル内・外、道など様々な場所で行っている。たとえば、図7のように、アドベンチャードーム、エッフェル塔、ミラージュホテルのボルケーノ、シークレットガーデン、ベラージオの噴水など。カジノ以外にも、高い水準のエンターテインメント、室外レクリエーション、スポーツイベント等の多様な活動が増えるようになる。これらによって、ラスベガスはカジノを楽しむマニア層だけではなく、家族観光客を含めた一般観光客の誘致に成功することとな

る。毎日どこかで披露されている多様なイベントにより、カジノ以外にもラスベガスを訪ねてくる目的が生まれたのである。このように各リゾートホテルの取り組みによって結果的にカジノを中心とするリゾートシティから、家族連れが楽しめる複合型メガリゾートシティへと、ラスベガスは方向転換を行うようになった。

このような方向転換の主な背景として、1994年までに、アメリカ合衆国全域(ユタ州、ハワイ除き)で、地域活性化及び税収増加のため、カジノが合法化されたことがあげられる。これにより、カジノだけを楽しむためにわざわざラスベガスを訪問する

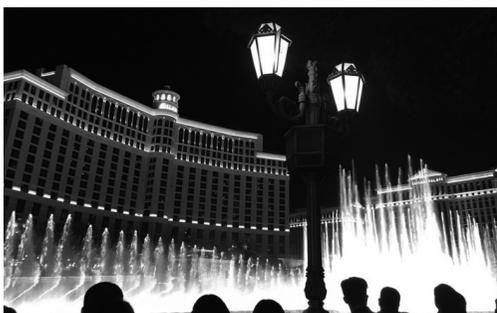


図7 ホテル自慢の多様なプログラム及び施設
筆者による撮影(2019.9)

理由がなくなったわけであった。このような現状を把握、変化する環境に素早くかつ能動的に対応することによって、ラスベガスは、カジノ都市からエンターテインメント都市へと変貌を遂げ、現在に至っている。このような変化の結果、観光客数は1995年の2900万人から2005年の3876万人へと十年間に約1000万人が増加、月平均300万人がラスベガスを訪ねることとなる。さらに、アメリカ合衆国民が夏休みのリゾート地の2番目としてラスベガスを選ぶようになり、近年は年間4000万人以上の観光客が訪ねてくる観光都市となっている⁴⁾。

3. 公演コンテンツ —— 『Ka』、『Le reve』

ストリップにはカジノを通する巨大テーマホテルが立ち並んでおり、各ホテルにはそれぞれが象徴する公演等がある。その中には、ラスベガス3大ショー（人気ベスト3）と呼ばれるものがあり、それは『Ka』（於：MGMグランドホテル）、『O』（於：ベラージオ）、『Le reve』（於：ウイン・ラスベガス）である。筆者が2019年現地を訪問した当時、『O』は1年に1回ある劇場整備時期と重なり観劇することができなかったため、本稿では『Ka』と『Le reve』だけを取り上げて、当日終演後にとったインタビュー

の内容と筆者が観劇して感じたことをまとめながら考察する。

MGMホテル専用の公演『Ka』（図8）は、カナダのケベック州モンリオールに基盤を置く「太陽のサーカス（Cirque du Soleil）」⁵⁾のレパートリー演目で、伝統的なサーカス要素とともに舞踊、精巧なセット、オペラ、音楽、コメディなどが混合された、世界的に有名なアクロバット公演である。火という要素を一次元的な手段ではなく、叙事的な表現を通じて二次元的に描き出し、まるで一つの映画を目の前で生々しく見るような、ブロックバスター級の公演として、世界的な規模のホテル公演に相応しい規模を見せている。一切英語を使わない、激しく傾斜した舞台の上で身体能力の極限に迫るアクロバットでファンタジックな表現、自然と伝わってくるストーリーが太陽のサーカスならではの魅力でもある。また、大仕掛けのあるステージの上で行われる重力と真っ向に対立するという命知らずな演技と、炎が舞う迫力の演出を見せている。

『Le reve』（図9）はフランス語で「夢」という言葉を意味する。公演のタイトルのように、夢を見ているような幻想的で非現実的な感じに満ちた『Le reve』は、太陽のサーカスの『O』に比べて公演の歴史は短いが、毎回絶賛を受けている『Le reve』⁶⁾⁷⁾。



図8 『Ka』（開演前）
筆者による撮影（2019.9）

太陽のサーカスが全体的に関わっていないが、太陽のサーカスのフランコドラゴン (Franco Dragone) が直接製作した公演である。『Ka』が火を使った公演であることに対し、『Le reve』は水を利用してダイナミックに表現した公演ある。耳に残る楽曲や、現実からかけ離れた別世界色に染まった照明演出と素晴らしい舞台効果、水のキラキラ光る円形状のプールの上で繰り広げられるアクア・パフォーマンス等によって、実際に夢を見たような神秘と胸いっぱい感動をそのままたたらしてくれる公演である。座席が円形になっておりどの席で観劇しても壮大さを感じ、平等に公演を観劇することができることが最大のメリットである。円形のステージ自体は上がったり下がったりして自由自在に動き、水が入った水中ステージなので、水も公演の流れによっては自由自在に流れ込んだりもする。俳優たちが水と舞台、天井、舞台裏などあちこちから登場し、水中ステージから30メートル以上の舞台天井まで一気に上がってダイビングをしながら公演の緊張感を緩めないようにする。

太陽のサーカスが作ったラスベガスホテル常設公演は、それぞれ異なるテーマと表現要素で人々の多様な欲求を満たしてくれるが、これらのホテル公演が以前から着実に変わらない関心を受けて優位に立ついくつかの特徴を持っている。

第一に、ラスベガスのホテル公演はホテルの専用館で常時公演される。ホテルは彼らの付帯施設で

一回限りの公演を提供するのではなく、ホテルを代表する一つの商品として公演を運営しているため、専用館を設置する。また、彼らを管理するチケットマネージャー、ハウスマネージャーなど専用スタッフが常駐し、劇場のように運営する。ホテルのプログラムではなく、一つの別の公演商品として観客が向き合っており、彼らの公演はホテルを象徴する一つのシンボルのような役割を超えて、一つのブランドとして認識されているのである。

第二に、最も重要な要因は、公演を表現する構成要素とジャンルの融合だ。太陽のサーカスは、サーカスという基本的なジャンルにヒップホップ、ミュージカル、ポップなど音楽的ジャンルとスキューバダイビング、バレエ、伝統舞踊など技術的なジャンルを融合させて新しいジャンルを誕生させる。多様性の中で差別化が行われ、これは新鮮でありながら親しみやすい要素だと、全世界の人々から共感を得た。伝統的なことを強調したり、時代が追い求めたりするのではなく、彼らだけのことを新たに創造した要因が、各公演に溶け込み、太陽のサーカスホテル公演という新しく特別なジャンルを作り出したのである。太陽のサーカスが作ったラスベガスホテル常設公演は、それぞれ異なるテーマと表現要素で人々の多様な欲求を満たしてくれるが、これらのホテル公演が以前から着実に変わらない関心を受けて優位を占領するにはいくつかの特徴を持っている。



図9 『Le reve』(終演後)
筆者による撮影(2019.9)

チケット価格は1人当たり平均100ドル以上だが、ホテル公演を観劇するために1日平均15,000人の観客がチケットを購入する。これは1日のラスベガス訪問者数の10%に当たる数値だ(Las Vegas Visitor Profile Study)。太陽のサーカスホテルの常設公演は公演の構成的・技術的發展はもちろん、大企業の投資が行われる中で短期間に大成功を収め、ラスベガスは世界最高の公演が見られる公演観光の中心地となった。公演観光をリードし、都市を代表する一つのブランドとして定着した太陽のサーカスホテル公演の役割が大きかったと言える。

4. ラスベガス式の成功戦略

砂漠という不毛の地からカジノの都市、今はエンターテインメント観光都市として成功したラスベガスの成功戦略にはどのようなものがあるだろうか。

一つ目は、カジノ施設のテーマ化戦略である。ラスベガスがこのように多くの観光客を誘致するのは、同一な内容の繰り返しではなく、絶え間なく新しく変貌しているからだ。現在も片方では古い建物が壊されている反面、もう片方では斬新で新しいテーマを持った建物が建てられている。無限な想像を巨大な資本とともに事業として実現させるのがまさにラスベガスである。筆者が実際に2019年訪問したところ、カジノ施設、劇場等を含め、数多くのホテルがひとつも同じテーマを持っていなかった。それぞれの特性を存分に活かしながら競い合っていた。

二つ目は、観光基盤施設の集中化戦略である。ラスベガスの主要ホテル及びリゾート施設はラスベガス市とクラックタウンティ地域が接するところに位置するストリップ地域とダウンタウンのかなり限定されている地域に集中していて、その他の地域は大部分が低密度の住居地域として構成されている。このような構造は密集したホテル及びリゾート施設は観客を、背後の低密度の住居施設は産業及び高級人材を誘引する効果を得るため計画された。また、観光施設は私たちが思うより、安く利用できるのがまたもう一つの魅力である。ストリップとダ

ウンタウンはそれ自体で世界の最も巨大なテーマパークの機能を果たしている。

三つ目は、イベント活性化の戦略である。ラスベガスには現在約75軒のホテルが立ち並び、総客室数は約15万室といわれている。そのほとんどのホテルには、主に1階にカジノが位置し、カジノが無いホテルは中心部から少し離れたモーターなどの小規模ホテルだけだ。カジノを持つ大型ホテルには、宿泊客や、観光客を自らの意思とは別に、自然とカジノへと足を運ばせる緻密に計算された仕掛けが施されている。さらに、各ホテルでは他では見ることが出来ない、各種のイベントとショー等の見ものを提供して観光客を引き込んでいる。1989年には火山噴火の無料アトラクションを付けたミラーージュホテル、そして1990年代にはその隣に海賊船のショーを取り入れたトレジャーアイランドホテル、最高級のホテル施設と、噴水ショーで有名なベラージオなど、次々と話題のホテルが建設された。その他、ホテルの前には無料で利用できるアトラクションやサンバ公演など量と質の面から想像を超えるイベントを無料や低価格で提供することで、客をひきつけるようにしている。行かずにいられない、見ずにはいられない戦略を組んでいる。このようなイベント以外にも毎月2回以上の大規模の博覧会と30回以上の産業博覧会が開かれていてラスベガスを訪ねてくる観光客の目を楽しませてくれる。これを期にエンターテインメント観光都市のみならず、コンベンションと文化の都市のイメージも持つようになっていく。

四つ目は、民間投資の促進戦略である。ダウンタウンのカジノとホテルは、ストリップの発展に比べ停滞が続いたが、1995年のフレモント・ストリート・エクスペリエンスをきっかけによりみがえった(図10)。約1億ドルが投資されたフレモント・ストリート・エクスペリエンスという独特なイベントは、およそ457メートル及び4つ分の区画を覆うハイテクなアーケードの屋根一面に1250万個の発光ダイオードが組み込まれていて、曲に合わせたレーザー光線などによる光のショーがフレモント・ストリート(図11)で繰り広げられている。約8分の上演が



図10 光のショー
筆者による撮影 (2019.9)



図11 ダウンタウン地区の地図

出典 [https://www.lvtaizen.com/map] (2022年3月4日閲覧)

毎日行われていて、30分おきに演出も異なる。このような施設の設置のための莫大な投資費用はどのように調達したのか。答えは民間企業を引き込んだのである。フレモント・ストリート・エクスペリエンスの場合は、韓国のLGエレクトロニクスが全額投

資していて、ショーの最後にはLGの携帯やノートパソコン等の広告が入っている。これを目当てに観光客がダウンタウンに再び戻り、ラスベガス市も継続的にダウンタウンの再開発を目指し、ストリップとは異なる体験ができるよう工夫を重ねている。

5. おわりに

近年、ラスベガスはカジノ都市から家族向けの場所へとポジショニングを変え、依然として世界屈指のエンターテインメント都市として位置付けられている。また、最近ではコンベンション育成に果敢に投資していて、全世界の指導者たちが参加する国際会議を開催することで、政治的、文化的交流の中心地として確実に位置付けられている。もはや今はラスベガスをカジノの都市、賭博の都市ではなく、エンターテインメント観光都市であり、休養都市とも呼ばれるのがより相応しい。

しかしこのようなラスベガスでも巨大な資本の集中的な投資による独占化の現状やカジノ営業の持続的な拡大による社会的副作用の問題、大規模な開発による環境破壊の問題などの、多様な社会的な問題にも直面しているのも事実である。また、

ラスベガスの産業別の雇用をみても宿泊・飲食、芸術、観光部門が最も高い比率である約30%を占めている。これはアメリカ合衆国全体の産業構造からみても8.9%に過ぎないため、ラスベガスは過度に高い比率であることが分かる (U.S. Census Bureau, 2015)。これは言い換えれば、ラスベガス特有の都市機能を見せていると言える。

現在はだれもが予測していなかった変数「COVID19」によって、日本国内のみならず、世界がCOVID19の猛威に直面しており、異次元の経済危機に直面している⁸⁾。このような変数によりラスベガスも厳しい現実を過ごしているのは言うまでもない。COVID19終息後、ラスベガスがこれをもどくのように乗り越え、また如何なる戦略を組んでいくのか、継続的に調査を行う必要がある⁹⁾。これに関しては今後の課題とする。

さらには本研究を土台にしながら、IR (総合型リゾート (Integrated Resort) やMICE産業 (企業等の会議 (Meeting)、企業等の行う報奨・研修旅行 (Incentive Travel)、国際機関・団体、学会等が行う国際会議 (Convention)、展示会・見本市、イベント (Exhibition/Event) を志向する他の都市の変容の可能性等についても視野に入れ研究を進めていく次第である。

謝辞

本稿は科学研究費助成事業 (19K13023) 助成金の交付を受けて行った研究の成果の一部である。

注

- 1) UNWTOによると、2012年の国際観光客総数は過去最高の10億3,500万人を記録し、2020年には13億6,000万人、さらに2030年には18億900万人になると予測されている (観光白書平成25年度版参照)。また世界旅行ツーリズム協議会 (WTTC) の報告では、世界全体の観光産業の経済規模 (観光GDP) は、2019年には9兆2000億米ドル (世界全体のGDP比約10.4%) に達し、全世界で3億3,400万人が雇用されていた。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により2020年の旅行・観光産業規模は4兆7000億米ドルに縮小、GDPに占める比率も5.5%と、いずれも半減した。[[http://www.wttc.org/research/economic-](http://www.wttc.org/research/economic-impactresearch/regional-reports/world/)

[impactresearch/regional-reports/world/](http://www.wttc.org/research/economic-impactresearch/regional-reports/world/)] (2022年5月2日閲覧)

- 2) ラスベガスのストリップに位置するホテルの各劇場において、2019年9月4日～8日の5日間、観客を対象にインタビューの実施 (主な質問事項は訪問目的、期間、同伴者、満足度、観劇回数等) 及び非参与的観察を行った。
- 3) ホテルフラミンゴプール、温泉、スカッシュ、射撃場、ゴルフ場などを持った極めて現代的な総合リゾート施設であった。
- 4) Las Vegas Visitor Profile Study, *Calendar year 2003, 2004, 2005, 2008, 2010, 2011, 2012, 2013, 2014, 2015, 2016, 2017, 2019 Annual Report*, Las Vegas Convention and Visitor Authority.
- 5) 太陽のサーカスはカナダを代表する文化輸出企業として成長している。革新的な理念の下、世界約100の都市を巡回公演を盛況に行っている。世界各国で17の公演を同時に行い、年間1兆5000億円の売上や7000人の雇用成果を上げている。1984年の創設当時は約70人の職員で始まったが、現在は世界中に4千人以上の職員が勤務しており、毎日公演に参加するスタッフと俳優も800人を超える。(西元まり (2008) 『シルク・ドゥ・ソレイユサーカスを変えた創造力』武田ランダムハウスジャパン)
- 6) 『O』は1998年10月から、『KA』は2004年10月から、『Le Reve』は2005年4月からスタートした。
- 7) <https://www.viator.com/ja-JP/tours/Las-Vegas/Le-Reve-The-Dream-at-Wynn-Las-Vegas/d684-3764LASLER> (2022年5月2日閲覧)
- 8) 経済産業省「新型コロナウイルスの影響を最も受けた『生活娯楽関連サービス』とは」[https://www.meti.go.jp/statistics/toppage/report/minikaisetsu/hitokoto_kako/20200728hitokoto.html#cont1] (2022年3月4日閲覧)
- 9) 2022年現在、ラスベガス中心地のストリップ大通りにあるホテルは週末だけ営業をしている所も増えているが、カジノは基本的にすべて営業をしている状況である。また、シルク・ドゥ・ソレイユをはじめとする、ショーは全て休演していたが、「コロナ禍の影響で経営難に陥り、昨年6月から法的管理下で再建計画を進めていたが、4月下旬、6月28日から4公演を再開する」(「業界の復活意味するシルク・ドゥ・ソレイユの公演再開」『産経新聞』2021年5月28日) と発表した。

参考文献

(日本語文献等)

- R. ヴェンチャーリほか著; 石井和紘、伊藤公文訳 (1978) 『ラスベガス』鹿島出版会。
 武藤聖一 (1998) 『ザ・ラスベガス』商店建築社。
 谷岡一郎 (1999) 『ラスヴェガス物語 ―「マフィアの街」から「究極のリゾート」へ』PHP研究所。

- 井崎義治 (2001) 『ラスベガスの挑戦 ―年間3百億ドルを稼ぎ出す眩惑都市の光と影』英治出版; 復刻版.
- 西元まり (2008) 『シルク・ドゥ・ソレイユサーカスを変えた創造力』武田ランダムハウスジャパン
- 地球の歩き方編 (2019) 『地球の歩き方ラスベガス セドナ&グランドキャニオンと大西部 2019-2020』ダイヤモンド社.
- 「業界の復活意味するシルク・ドゥ・ソレイユの公演再開」『産経新聞』2021年5月28日.

(外国語文献等)

- 김·미·영·진·주 (1997.5) 「라스 베이거스 도시개발의 현황과 문제점 (ラスベガス都市開発の現況と問題点)」『국토 (国土)』187号, 国土研究院.
- Eugene P. Moehring. (2000) *Resort City in the Sunbelt: Las Vegas, 1930-2000*, University of Nevada Pres.
- Land, Barbara and Land, Myrick. (2004) *A Short History of Las Vegas*, 2nd ed, University of Nevada Press.
- Eugene P. Moehring and Michael S. Green. (2005) *Las Vegas: A Centennial History (WILBUR S. SHEPPERSON SERIES IN NEVADA HISTORY)*, Univ of Nevada Pr; REV. and Enlarg.
- U.S. Census Bureau (2010) *2006-2010 American Community Survey*, American FactFinder
- U. S. Department of Commerce (2011) *Bureau of Economic Analysis*
- U.S. Census Bureau (2015) *2011-2015 American Community Survey*, American FactFinder
- Las Vegas Visitor Profile Study, *Calendar year 2003, 2004, 2005, 2008, 2010, 2011, 2012, 2013, 2014, 2015, 2016, 2017, 2019 Annual Report*, Las Vegas Convention and Visitor Authority.

付記

- [<https://www.lvtaizen.com/map/>] (2022年3月4日閲覧)
- [<http://stw-america.com/>] (2022年3月4日閲覧)
- [<https://www.census.gov/en.html>] (2022年3月4日閲覧)
- [<https://www.isan-no-sekai.jp/report/7749>] (2022年3月4日閲覧)
- [https://www.koho2.mext.go.jp/221/voice/221_15.html] (2022年3月4日閲覧)
- [<https://www.meti.go.jp/statistics/tyo/sanzi/result-2.html#cont4>] (2022年3月4日閲覧)
- [https://www.meti.go.jp/statistics/toppage/report/minikaisetsu/hitokoto_kako/20200728hitokoto.html#cont1] (2022年3月4日閲覧)
- [<https://www.cirquedusoleil.com/>] (2022年3月4日閲覧)
- [<https://lereve.show/>] (2022年3月4日閲覧)
- [<https://www.viator.com/ja-JP/tours/Las-Vegas/Le-Reve-The-Dream-at-Wynn-Las-Vegas/d684-3764LASLER>] (2022年5月2日閲覧)